

二〇一三年四月二四日（野崎観音参加者一四名）

鶯の声の四方より展望台	せ	い	じ
門入れば法の御山に藤盛る	〃	〃	〃
新緑に目を見開きし羅漢かな	〃	〃	〃
春灯や御簾の奥なる観世音	〃	〃	〃
山裾の墓苑に隣る竹の秋	〃	〃	〃
悲恋塚牡丹は雨にうなだれて	〃	〃	〃
展望台足下を埋む若楓	宏	虎	
子宝を願ふ一途や東風の絵馬	〃	〃	〃
寺の樹々艶増す今日の緑雨かな	〃	〃	〃
法の山眼の洗はるる若葉かな	〃	〃	〃
山門をくぐりて仰ぐ懸り藤	有	香	
法若葉慈母観音を要とす	〃	〃	〃
観音のさしのべし手に若葉雨	〃	〃	〃
急磴や左右のつつじに一休み	ひ	か	り
春灯江口の君は御簾の中	〃	〃	〃
唐門に雨やどりせる猫の夫	〃	〃	〃
若葉雨無縁の塔のやすかれと	わ	か	ば
懸崖に傾ぎ枝を張る若楓	〃	〃	〃

猫の夫らし御手洗に寄り来る	ぼ	ん	こ
山門を額縁として山の藤	〃	〃	〃
新緑の雨に全開江口堂	よ	し	子
桜蕊散り敷く磴は二百段	〃	〃	〃
禅寺の磴また磴や山若葉	つ	く	し
春灯江口の君は御簾隠れ	き	づ	な
法の山おほひつくして懸り藤	は	く	子
尺取り虫地に着くまでの宙測る	〃	〃	〃

吟行句会みの選

二〇一三年四月二四日（野崎観音参加者一四名）